

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◇◆◇ No.0628 ◇◆◇

21/03/24

【ドル/円の1月安値、「短期波動」底値の可能性も!?】

当レターでも再三再四レポートしているように、ドル/円相場は、年明け6日に示現した年初来安値 102.60円を目先ボトムに、ほぼ右肩上がり展開だ。一時7円近い上昇をたどっていた。そして、市場では日米金利差などを材料に、さらなるドル高・円安の進行を予想する声も少なくないが、たびたび取り上げている「ドル安サイクル」の観点からすると、やや臍に落ちないところもなくはない。ドルの続伸はもちろん否定できないが、短期的にはそれよりむしろドルの下値リスクが高い気もしないようも思っている。

◎前回安値から10ヵ月、「条件」はぎりぎりクリア

ドル/円における「ドル安サイクル」については、過去の当レターでも何度かレポートしている。詳細はバックナンバーを是非とも当たって欲しいが、ドルの安値と次のドル安値を結んだ「ドル安サイクル」は、期間により少なくとも大きく3つあると言われていた。そして、直近においてレポートした昨年11月25日付当レターで使用した、3つの「ドル安サイクル」について、以下で再掲載するとともに、当時とどういった変化があったのかを最初に指摘しておく(赤字は今回修正を加えた部分、あるいは確定した部分)。

長期波動(66ヵ月)	中期波動(20-25ヵ月)	短期波動(10-15ヵ月)
・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57	・11/10/31 75.57
	↓	・12/09/13 77.13(11ヵ月)
	・13/06/13 9375(19ヵ月)	左同 (9ヵ月)
	↓	・14/10/15 105.20(16ヵ月)
	・15/08/24 116.15(26ヵ月)	左同 (10ヵ月)
	↓	
・16/06/24 98.65(56ヵ月)	・16/06/24 98.65(10ヵ月)	・16/06/24 98.65(10ヵ月)
	↓	・17/09/08 107.33(13ヵ月)
	・18/03/26 104.57(20ヵ月)	・18/03/26 104.57(7ヵ月)
	↓	・19/01/03 104.10(10ヵ月)
・20/03/09 101.19(45ヵ月)	・20/03/09 101.19(24ヵ月)	・20/03/09 101.19(14ヵ月)
* 暫定値;本来であれば2022年ごろ	↓	・21/01/06 102.60(10ヵ月)
期間が短すぎるとの声	早くて21年秋	(暫定値)

前述した前回、昨年11月25日付の当レターから大きな進展はないものの、その後の展開を考えると、今年1月に記録した年初来安値の102.60円が10-15ヵ月周期という「短期波動」のボトムだった可能性が指摘されている。前回の2020年3月安値からおよそ10ヵ月を経ての安値示現で、確かにギリギリで条件には当てはまっていると言わざるを得ない。

ちなみに、仮にこの見方が正しいとすれば、今年1月以降、足もとの至る動きは「短期ボトムを示現後のドル反発」過程にあるとみられ、さらなる高値をたどる公算が大きいだろう。予想される次の「短期ボトム」である今年の年末あるいは来年初めをにらみつつ、当面のあいだはドル高・円安傾向が続くことになりそうだ。

しかしながら、実をいうと筆者はこの見方に懐疑的だ。理由はいくつかあるのだが、うちひとつを指摘すれば「ドルのボトムのつけ方」に疑問を抱いている。

テクニカル・アナリストの一部からは、「短期波動であるから、これでもイイ」という話が聞かれているけれど、前回2020年や前々回2019年は「フラッシュクラッシュ」と呼ばれるような暴落を経て、ドルのボトムが達成された。いわゆる「最後の断末魔」、高値にてドルロングを仕込んだ向きが最後の最後に諦めて「投了する」行為があつての底入れではないか、という考えが筆者はいまだ捨て切れない。そして、今回はまだそれが観測されていないと思っている。

いずれにしても、後者である筆者の見方が正しいとすれば、それほど遠くないタイミング、来月にもドルは

急反落に転じると年初来安値 102.60 円の更新をうかがう局面があっても不思議はないだろう。基本的なシナリオは「ドル続伸、110 円超えを目指す」ーということなのだろうが、市場が「総強気」といった状況に傾きつつあるだけに、「もうはまだなり、まだはもうなり」。逆方向への動きについても、リスクシナリオとして頭の片隅にとどめておいて損はないのではなかろうか。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter